

氷河期世代 社会で支援を

就職氷河期世代。1993～2004年ごろ、学校卒業期を迎えた現在30代半ば～40代後半の人たちだ。

00年には大卒求人倍率（リクルートワークス研究所）が0.99倍になるなど、雇用情勢が厳しかった時期に就職活動が重なった世代で、不本意に非正規で働く人が多いといわれる。社会参加に向けた支援を必要とする人を含めると、100万人にのぼるともいわれる。80歳の親が50歳の子を支える「8050問題」が顕在化するなか、この世代が50歳になる前の対策が急務といえるだろう。

政府は地方自治体と連携し、就職氷河期世代の正規雇用を3年間で30万人増やすことや、社会参加の支援促進などの支援を今年度から集中的に始める。

三重県では、就職支援窓口「マイチャレ三重」を開設。就職・転職に向けた支援や生活相談などの「当事者向け」と、就労環境の整備など受け入れ側となる「企業向け」の両面から支援する。当事者だけでなく、社会全体での理解と支援が必要なためだ。

実態把握のため、この世代を対象にしたアンケートも実施している。当事者からの声が有効な支援策の第一歩となる。ぜひ率直な声を届けていただきたいと思う。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 山崎 美幸）

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2020年10月19日